

1 ▶ 質問: その物質が禁止されていないかどうか、どのようにすればわかりますか?

- a. 薬局で購入すれば、その物質は安心して使える
- b. 箱に「doping-free (ドーピングにはならない)」と書いてあれば、その物質は安心して使える
- c. 植物から作られている物であれば、その物質は安心して使える
- d. 「禁止表」に記載されている物質が一切含まれていなければ、その物質は安心して使える

答え: d. 「禁止表」に記載されている物質が一切含まれていなければ、その物質は安心して使える

説明: ある物質を使用する、またはその必要がある場合、必ず「禁止表」を確認してください。よくわからない場合は、薬剤師または医師にその禁止表を見せ、質問をしましょう。禁止表は、WADAのウェブサイト、国内アンチ・ドーピング機構 (NADO) または国際競技連盟 (IF) のウェブサイトで見ることができます。また、NADOやIFに連絡して問い合わせることもできます。

2 ▶ 質問: 栄養補助食品は、どのようにすれば安心して使用できるかわかりますか?

- a. 栄養補助食品は、すべて安心して使える
- b. その栄養補助食品が安心して使えるかどうか、分からない
- c. ラベルに安全と書いてあれば、安心して使える
- d. 医師から処方されたものであれば、安心して使える

答え: b. その栄養補助食品が安心して使えるかどうか、分からない

説明: 補助食品メーカーは規制の対象ではありません。そのため、その補助食品にどんな物質、原料が使われているかはわかりません。補助食品の使用は常に自己責任で行ってください。パッケージに、現実的に考えてあまりに素晴らしい効果が書かれていたら、スポーツで禁止されている物質が含まれている可能性があります!

3 ▶ 質問: 私も検査されますか?

- a. いいえ、私はジュニア選手なので
- b. いいえ、私は国際大会に出場していないので
- c. はい、すべてのアスリートが検査を受ける可能性がある
- d. いいえ、私の競技はドーピングのリスクが高いスポーツではないので

答え: c. はい、すべてのアスリートが検査を受ける可能性がある

説明: アンチ・ドーピング規則は、すべてのアスリート、すべての競技、すべての国に適用されます。そのため、アスリート誰でも検査の対象になる可能性があります。

4 ▶ 質問: ドーピングが発覚したら、どのような制裁措置がとられますか?

- a. ドーピングに制裁措置はない
- b. ジュニア選手なら制裁措置はとられない
- c. 警告から、生涯にわたる参加資格剥奪まで
- d. 誰がその物質を与えたかによる

答え: c. 警告から、生涯にわたる参加資格剥奪まで

説明: 制裁措置には、違反の重度により、競技結果の失効、すべての競技への参加資格剥奪、罰金、さらにあなた自身のアンチ・ドーピング規則違反について公開すること等があります。

5 ▶ 質問: 私のコーチや医師にも制裁が科せられますか?

- a. いいえ、制裁が科せられるのはアスリートだけ
- b. いいえ、制裁が科せられるのはアスリートとコーチだけ
- c. いいえ、ドーピング違反として制裁措置はとられない
- d. はい、アスリート、およびサポートスタッフに制裁が科せられる可能性がある

答え: d. はい、アスリート、およびサポートスタッフに制裁が科せられる可能性がある

説明: 世界アンチ・ドーピング規程 (Code) では、アンチ・ドーピング規則違反の際には、アスリート本人同様、サポートスタッフにも制裁措置が科される可能性があります。サポートスタッフとは、その競技会に参加し、または競技会参加前の準備段階でアスリートにトレーニングをしたり、治療を行った、すべてのコーチ、トレーナー、マネージャー、代理人、チームスタッフ、競技役員、医師またはその他の医療スタッフをいいます。

6 ▶ 質問: アスリートの体内から検出された物質については誰が責任を負いますか？

- a. アスリートの医師
- b. アスリートのコーチ
- c. アスリート自身
- d. 誰がアスリートにその物質を与えたかによる

答え: c. アスリート自身

説明: アスリートは、自らの体内から検出されたものについてすべてに責任を負います。その禁止物質の使用が故意ではない、または他の人に安全だと言われてその物質を提供された場合でも、責任はアスリート本人にあります。これは、「厳格責任」の原則に基づくものです。アスリートは、その物質について確証がない場合、または物質が禁止されているかどうか定かでない場合、禁止表を確認したり、自身の国際競技連盟 (IF) または自身の国内アンチ・ドーピング機構 (NADO) に問い合わせる前に、その物質を使用してはなりません。

7 ▶ 質問: 治療のために私の医師が薬を使用しなければならない場合、どうすればよいですか？

- a. 医師はその薬に禁止物質が含まれていないかどうか確認する必要がある
- b. 医師から与えられたものはどんなものでも安全である
- c. もし医師から与えられた物質によって検査結果が陽性となったら、それはその医師の責任である
- d. 治療のためであれば、必要なものは何でも摂取できる

答え: a. 医師はその薬に禁止物質が含まれていないかどうか確認する必要がある

説明: 医師は、その薬に禁止物質が含まれていないかどうか確認しなければなりません。その物質が禁止されていて、さらに他に代えられる治療法がない場合、アスリートは、医学的情報を伴う診断内容と共に「治療目的使用の適用措置 (TUE)」を提出する必要があることを、医師に伝える必要があります。ただし、医師が必ずしもこのTUEのプロセスを認識しているわけではありません。よって、アスリート本人が担当医師に対して自分がアスリートであり、アンチ・ドーピング規則が適用されることを伝えることが重要です。

8 ▶ 質問: コーチや自分が選んだ人を検査室に付き添ってもらうことはできますか？

- a. はい
- b. ジュニア選手のみ可能
- c. ドーピング・コントロール・オフィサー (DCO) から代理人の付き添いを求められた場合のみ可能
- d. アスリートは、誰も検査室に付き添わせることはできない

答え: a. はい

説明: アスリートは、自身が望めば、親、コーチ、チームオフィシャルまたは医師等を検査室 (ドーピング・コントロール・ステーション) に付き添わせることができます。また、未成年のアスリートはすべて、検査室に大人の誰かを付き添わせる必要があります。その未成年アスリートに付き添える人がいない場合、ドーピング・コントロール・オフィサー (DCO) が付添人を選びます。さらにアスリートは、必要性があり、また可能であれば、言語の介助者または通訳者を伴うことができます。

9 ▶ 質問: 検査を行うことが認められているのは誰ですか？

- a. 身分証明書を提示しアンチ・ドーピング機構から認可を受けていることを証明できるドーピング・コントロール・オフィサー
- b. コーチなら誰でも
- c. 医師なら誰でも
- d. 警察官なら誰でも

答え: a. 身分証明書を提示しアンチ・ドーピング機構から認可を受けていることを証明できるドーピング・コントロール・オフィサー

説明: 認定されたドーピング・コントロール・オフィサー (DCO) のみが、検査を行うことができます。各自が、自分はドーピング・コントロール・オフィサーであること、またはアンチ・ドーピング機構によりドーピング・コントロールの実施を認定されていることを証明する必要があります。

- 10 ▶ 質問: ドーピングは私の成長に影響を与えますか?
- はい、ドーピングの物質はひとの成長に直接影響を与える
  - いいえ、ひどいにきびができる程度である
  - いいえ、ずっと年を取ってから影響がでるだけである
  - いいえ、内臓への影響だけである

答え: a. はい、ドーピングの物質はひとの成長に直接影響を与える

説明: ドーピングには多くの副作用があります。考えられる副作用の1つが、アスリートの成長や身体的な発達への影響です。他に、可能性のある反応として論じられているすべての副作用についても同様です。ドーピングが禁止されている理由の1つは、健康に重大な悪影響を及ぼすからというものです。

- 11 ▶ 質問: 検査を拒否することはできますか?
- いいえ
  - はい、家庭の用事があれば可能
  - はい、かなり忙しいという理由で可能
  - はい、学校に行くという理由で可能

答え: a. いいえ

説明: アスリートは、検査を拒否することはできません。拒否すれば、検査で陽性反応が出た場合と同様の制裁が科せられます。それには例えば、すべての競技への参加資格剥奪があります。これは、ドーピングをしているアスリートが検査を拒否することで、事実が発覚し制裁を科せられるのを簡単に避けることができってしまうからです。

- 12 ▶ 質問: アンチ・ドーピングに関する信頼できる情報はどこで手に入れますか?
- 国際競技連盟、国内アンチ・ドーピング機構、世界アンチ・ドーピング機構
  - インターネット
  - フィットネス系、スポーツ系の雑誌
  - 友人

答え: a. 国際競技連盟、国内アンチ・ドーピング機構、世界アンチ・ドーピング機構

説明: 国際競技連盟 (IF)、国内アンチ・ドーピング機構 (NADO)、地域アンチ・ドーピング機構 (RADO)、国内オリンピック委員会、国内競技団体 (NF) が、ドーピング・コントロールに関するすべての情報を競技者に提供しています。この情報には、「禁止表」について、「居所情報提出」、「治療目的使用に関わる除外措置 (TUE)」の申請に関するものが含まれています。また、世界アンチ・ドーピング機構 (WADA) でも情報を提供しています。

- 13 ▶ 質問: 検査はどのように行われますか?
- DCOから、検体提供をしなければならないことを伝えられる
  - 髪の毛を数本提供しなくてはならない
  - 左ひじを右ひざにつけ、つま先立ちしなければならない
  - 上記すべて

答え: a. DCOから、検体提供をしなければならないことを伝えられる

説明: アスリートが検査に選ばれた場合、ドーピング・コントロール・オフィサー (DCO) がそのアスリートのところに行きます。アスリートはそのDCOとともに、検査室に行きます。そこでいくつか書類を書き、検体採取のキット (ボトル2本とカップの入った箱) を選びます。次に、トイレに行き、そのアスリートと同性の人の目の前で、カップに尿を入れます (その尿がそのアスリートのものであることを確認するため)。血液検体の提供を求められる場合もあります。そしてドーピング・コントロール・ステーションに戻り、自分の選んだボトルに満たし、ふたをします。その後もう少し書類を書き、終了! 1-2-3の簡単なステップです!